55

No. 1

一ノート一

-Notes-

木島正夫,安藤寛治:第6改正日本薬局方生薬の精油定量法 ((b) 比重1以上の場合) について

Masao Konoshima and Kanji Ando: On the apparatus for volatile oil determination ((b) oils heavier than water), Pharmacopoeia of Japan VI.

(Kyoto College of Pharmacy)*

現行第6改正日本薬局方一般試験法第8項(8)精油定量法の精油定量装置および定量器(Fig. 2)は刈米・堀野 両氏考案¹⁾ のものが第5改正薬局方(前局方)に採用収載されたもので、前局方の定量装置(Fig. 1)は還流冷却器 の球部、その他に若干欠陥がみとめられ、現局方に改正時、これ等を改良し、その他は概ね前局方の装置を踏襲して いる. しかるに現行の "(B)比重1以上の場合"の定量器の目盛管部を見るにO線が目盛管の管底からやや上部に附 けられていて (Fig. 2, B), しかも管底から目盛の最上部までの長さ (8.5 cm) と目盛管の外径 (0.7 cm) だけしか規

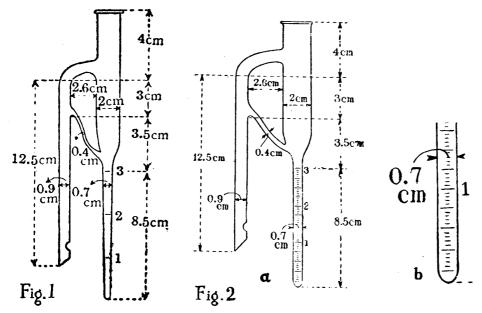


Fig. 1 第5改正日本薬局方揮発油定量器(乙)(局方より転写)

Fig. 2 第6改正日本薬局方精油定量器(B)(官版局方より転写) は目盛底部の拡大

されていないので, 市販の 定量器では〇線の位置は不 定である. したがつて現行 定量器で精油を定量する場 合, その定量値は管底から O線までの空白部に溜る精 油の量が誤差となつて過小 値があらわれる. しかもそ の量は定量器によつてまち まちである. 生薬の精油含 量としてはそれだけ過小評 価されるわけで、正確を期 すべき局方定量器としては 不適当である. 前局方(乙) 定量器(Fig. 1)は器底から 目盛を起していて現局方の 目盛のつけ方は恐らく改正 時, 図版の目盛をつける際 の誤記かと思われるが、む

しろ前局方より改悪されている。現定量器の目盛は1目盛 0.05 cc であるから、目盛管の最下の目盛は 0.05 cc ある いは少なくとも $0.1\,\mathrm{cc}$ の目盛がつけられなければならないのであつて、0線ではない。

筆者等は次期薬局方追補発刊のときに改正されるよう要望してあるからおそらく改正されるものと思われるが、市 販の現行定量器を使用して精油を定量する場合には、使用者はそれぞれの定量器の管底からO線までの空白部に溜る 精油の量を予め定量し、その量を補正して使用すればよい. すなわち

正確な精油の量=目盛管の読みによる精油の量+管底から〇線までの空白部の精油の量(補正量)

京都薬科大学(1958年2月28日受理)

Yamashina-Misasagi, Higashiyama-ku, Kyoto.

刈米·堀野:薬誌 **50**, 232~235 (1930)